太田稔彦豊田市長 × 柴田久尚理事長 特別対談

「過去と今」、「今と未来」をつなぎ、想像以上の創造を

真のリーダーによる「和」の精神あふれる地域の創造

（一社）豊田青年会議所は２０１５年度“誇れる国・地域へ～「心」をつなぐ～”、“活力ある地域へ～「人・企業・地域」をつなぐ～”、“輝かしい未来へ ～「次代」へつなぐ～”という３つの大きなテーマをもって活動を進めていきます。
今回は、行政の取り組みと関わりの深い（一社）豊田青年会議所２０１５年度の３委員会の活動について、私たちの顧問である豊田市長太田稔彦氏に柴田理事長が伺いました。

“誇れる国・地域へ ～「心」をつなぐ～”

柴田　これまで、（一社）豊田青年会議所では市民の皆様に対して日本人の心を醸成する運動を展開して参りました。イギリスの歴史学者であるアーノルド・J・トインビー氏も、「12・13歳までに民族の神話を学ばなかった民族は必ず滅びる！」という言葉を残し、自国の神話や歴史を学ぶ事の大切さを説いていました。

しかし、そのことを自分たちのまちに置き換えてみると、私たち若い世代の人間が、どこまで豊田市の歴史を知っているのでしょうか。この豊田市が挙母町だった頃、時の町長であった中村寿一氏がトヨタ自動車を誘致したことが現在の豊田市の礎となり発展してきたのですが、若い世代にはほとんど知られていません。私たち若い世代は、中村氏をはじめとする多くの人々の情熱や想いまでを含めて、自分たちのまちの歴史を知る必要があると思います。そこで、２０１５年度より「市民の誇り創造委員会」を設け、新しい試みとして市民の誇りを醸成する運動を展開していきたいと考えています。

太田稔彦（おおた としひこ）

昭和 29 年 4 月 30 日生まれ 出身地愛知県豊田市 早稲田大学商学部 卒業
【経歴】
昭和 52 年 4 月 1 日 豊田市採用　平成 14 年 4 月 1 日 豊田市行政経営課長
平成 21 年 4 月 1 日 豊田市経営政策本部長
平成 23 年 4 月 1 日 豊田市総合企画部長
平成 24 年 2 月 19 日 豊田市長就任
平成 26 年 6 月 4 日 東海市長会会長、愛知県市長会会長就任

太田　確かに自分たちのまちの歴史を知ることは重要だと思います。以前、環境会議に参加してくれたイギリスのダービーシャー市から来た子どもたちが表敬訪問してくれたのですが、「豊田市は自動車産業の前はどんな産業で成り立っていたのか」という質問をされました。私は「養蚕で栄えていたよ」と答えましたが、さらに「養蚕の前はどんな産業があったのか」と質問されました。イギリスの子どもたちは、産業革命が歴史上の大きな転換期であり、それ以前の産業についてもとても興味を持っている事に驚きました。

柴田　外国の子どもたちでさえ、訪問した都市の歴史を学ぼうと興味を示しているのに、私たちのようにまちづくりに関わる団体のメンバーにとってはなおさら、まちの歴史について知らなくてはいけません。さらに私たちは、中村寿一氏をはじめ、このまちに対し熱い想いを持ち、決断され、情熱をもって取り組んでこられた、当時の先人の想いを理解しなければ、まちづくりを語ることができないと思っています。

太田　当時の先人の想いを理解するには、当時の時代背景を理解する必要があります。あの時代は高度経済成長に入った頃で世の中に勢いがありました。戦後の沈滞から抜け出し極端な右肩上がりという時代の勢いも考慮し、客観的に分析する必要があります。

“活力ある地域へ　～「人・企業・地域」をつなぐ～”

柴田　時代背景というと日本全国には近い将来存続していくことが困難となる自治体が複数存在しているといわれ、愛知県内でも危惧されている自治体があるようです。豊田市は合併して１０年が経ちますが、今後はどのように推移していくと思われますでしょうか。

太田　日本全国の過疎化に悩む町村と豊田市では状況が違っています。例えば、東京や大阪であれば片道２時間程度かかっても通勤圏内です。このことを考慮すれば、この豊田市では、稲武地区であっても中心部から片道１時間程度で通うことができます。将来的には、仕事は都市部に出向き、普段の生活は静かなところで暮らすという選択肢も出てくると思います。

柴田　私たちは「暮らし満足」というキーワードを切り口に「暮らし満足都市創造委員会」を設け、市町村合併から１０年たった豊田市が、どのようにすれば本当に暮らしに満足を感じられる都市となることができるか、私たちなりに調査研究し発信していきます。昨年、小原地区において都市と農山村の交流をテーマに開催した例会において、小原に住む若者たちが、どのようにすれば、地域に新たな魅力を生み出し過疎化を食い止め、自然を維持することができるのかについて積極的に意見を出している姿を見て、農山村を活性化させていくのはそこに住む若者たちなのだと実感しました。

太田　先日、オールドマン芸能発表会という豊田市の２７地区を代表する高齢者の方たちによる発表会に参加した折に、「自分の地域が一番いいと思っている人、手を挙げてください」と聞いたところ見事に全員の手が挙がりました。行政が実施する市民意識調査では、様々な意見をいただきますが、住めば都という言葉のとおり、ここに住み続けたいという気持ちが「暮らし満足」の根源になると思います。そして、その気持ちを子や孫などの次の世代へ語り伝えていくということが大切です。知識としての教育を超えたふるさと教育ともいうべきしょうか。自分たちの暮らしている地域に愛着をもつということ、そのことの積み重ねが国を想う気持ちにもつながっていくと思います。

柴田　次の世代に伝えていき、若い世代がその想いを共感することができなければ、どんどん地域離れが進んでしまうということですね。

太田　共感ということで言えば「食」から入るのが良いと思います。「買い支える農業」という言葉があるのですが、猿投で桃の花が咲き誇っている情景や四季折々に表情を変える南部の田園風景、そういった景観を含めて守り受け継いでいこうという価値観を共有することが、その土地の農産物を買って支えようという気持ちにつながります。その結果、景観を守ることができ次の世代へと受け継いでいくことができます。森林についても同じです。豊田市は県下１番の面積を誇り人口は名古屋市に次いで２番です。そんな広域な豊田市の景観を守るためには地産地消を進め、県外市外の方には景観のファンになっていただくということが大切です。

柴田　私自身は「猿投の出身であり、棒の手に関しても子どものころから慣れ親しみ、桃の花も身近にありました。「猿投」という言葉が自分にとっては誇りですし、聞くと嬉しくなります。豊田市民にとって「豊田」という言葉が誇りに感じてもらえるように、私たちは活動する必要があります。

“輝かしい未来へ ～「次代」へつなぐ～”

柴田　2019 年のラグビーワールドカップ招致の気運を高めることにも関わるのですが、次代を担うこどもたちが、昨今のグローバル化が進む時代を、夢や希望を抱き、自らの道を切り拓いていく力を身に着けるために、「スポーツ力創造委員会」を設け、タグラグビーを通した次世代育成を行っていきます。タグラグビーは 2012 年度からの継続事業ですが、初めてプレーする子どもたちがすぐに好プレーを連発するという順応力の高さには、いつも驚かされます。そして子どもたちの真摯に取り組む姿が周りの大人たちにも勇気を与えてくれています。私たちとしてはこれから先もこの様な取り組みを継続し、子どもたちだけでなく周りの大人たちを巻き込み、まちの活性化につなげていきたいと考えています。

太田　豊田市としても（一社）豊田青年会議所の皆さんがタグラグビーに取り組んでいただいたことに感謝しています。ぜひ事業規模を拡大していただきたいと思います。

柴田　はい、私たちにはこれまで事業を行ってきたノウハウや実績がありますのでそれを活かし、行政の皆様と協力してさらに昇華させていきたいと考えています。

太田　2019 年のラグビーワールドカップ招致に向けて、豊田スタジアムをラグビーの聖地としていきたいと考えています。タグラグビーを今後、より大きな大会にすることは可能ですか。

柴田　市長のおっしゃる通り私たちとしても大会を年々大きくするために、市内の小学校でタグラグビーを授業に取り入れていただくなど普及啓発に取り組んでいます。こうした地道な活動がいつかは実を結び大会規模を大きくすることにつながると信じています。

太田　ラグビーW杯招致に向けては西三河エリアや東海環状道路が通る尾張エリアでも盛り上がっていただくことが大切だと思います。

柴田　私たちの取り組みに、トヨタ自動車のラグビーチーム「ヴェルブリッツ」の関係者や、愛知県と豊田市のラグビー協会の皆様から全面的にご協力をいただいております。いつかは豊田スタジアムのピッチでタグラグビー大会を開催できればと考えています。

太田　きっと実現できると思いますよ。豊田青年会議所の皆さんは卒業生された方も含めて、まちづくりに携わっていただく方ばかりが集まる団体だと思いますので、ぜひこういった意見交換をこれからもお願いします。

柴田　こちらこそ、これからもよろしくお願い申し上げます。本日はお忙しいところ、本当にありがとうございました。

２０１４年度１０月度例会にて行われた「オバラ白熱教室」では、小原地区の若者たちが地域を想い積極的に意見を出していただきました。

タグラグビーは学年や性別、これまでの経験の差が出にくく、初めてプレーする子どもたちの好プレーに周りの大人たちも沸き立ちました。